SSH NEWS
熊本北高等学校
SSH研究部
2025.6.27
北高SSHニュース
Vol. 370

２年英語科・理数科
ARⅡ・GRⅡ合同研究計画報告会

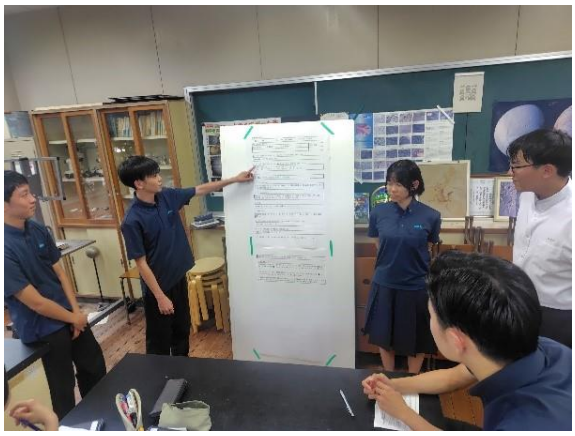

図１ 報告会での発表の様子

６月１６日（月）に2年英語科・理数科合同で研究計画報告会を行いました。それぞれの班の、これまでの取組と研究課題テーマについて、加えて今後の展望について発表4分、質疑応答4分で行いました（図１）。

5限目は英語科8班の発表でしたが、英語での発表や内容を追加して伝える班がありました。６限目は理数科５班の発表でしたが、既に行った実験について動画で伝えたり、実物を準備する班がありました。

学科の異なる生徒たち、先生方から様々な視点の質問、助言がありました。交流する機会としても、探究活動の内容の進化に向けたアドバイスを得る機会としても有意義な時間でした。今後の研究の深化が楽しみです。

ARⅡ・URⅡ・GRⅡを同じ時間で実施しています

今年度は、ARⅡ・URⅡ・GRⅡを同じ時間で行っています。そこで、ARⅡ(理数科)物理班がURⅡ(普通科)生活科学班に、マイクとオシロスコープを使って音の波形を見る方法を教えている場面がありました（図2）。

同じ時間だからこそ、分野の垣根なく、実験方法を伝えられるという利点が垣間見えました。データ分析や機器の使い方、論文での英語表記の仕方など今後も様々な場面で学びの共有が行われることに期待しています。

図2 機器の使い方を教えている場面

SSH NEWS

Kumakita Science Cafe

５月２１日、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所　矢野歩実主任研究員を講師としてお招きし、「ハルシネーションからリテラシー向上の必要性を知ること」をテーマにお話いただきました。講義の中で、生成AIが作った画像や文章を見抜いたり、プレゼンテーション作成を実演したりと、楽しみながら講義を聞くことができました（図３）。講義の最後に、生成AIと共存していくためにはリテラシーを向上させるしかないこと、人間はあくまでもパイロット側であり、協創する意識をもつこと、経験・コミュニケーション・人とのネットワークを広げることは人間にしかできないこと、ということも学ぶことができ、これから生成AIと共存していく高校生たちにとって、実りのある時間となりました。

今年度より毎週水曜日の放課後の時間を「主体的な活動の時間」とし、45分間を生徒たちが自らデザインし、活動する取組を実施しています。今回はその一環の活動でしたが、昨年度よりも多くの生徒が参加していました。

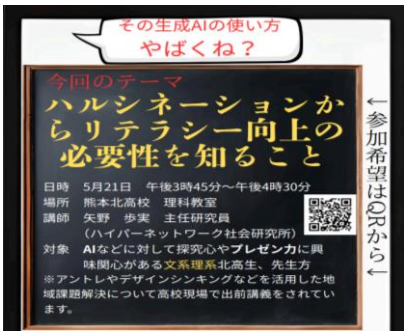

図3　ポスター(上)
サイエンスカフェの様子(下)

Co-creation

探究心を刺激する専門家によるオンライン講義を行いました

図4　5月19日(月)URⅡの時間に
オンライン講義を聴く様子

URⅡのアントレプレナーシップ班を対象に「課題の発掘とアントレプレナーシップ」というタイトルで、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所主任研究員　矢野歩実様にオンラインでお話いただきました（図4）。「徹底的なユーザー視点」に立って「答えのない問」に挑むことの大切さについて学び、理想と現実（困りごと）のギャップを捉え、解決していくプロセスの中に本質的な課題解決のヒントがあることや、「ビジネス」として形にしていくために必要な視点や考え方についても深く理解することができました。今回の授業を通して、社会の困りごとを解決するアイデアを創出していきたいと感じました。